

国指定重要文化財 旧日野病院

日野病院は、江戸時代から続く医家で、この建物は明治27年(1894年)に日野医家3代目にあたる、日野要氏によって建てられました。病院の建物は儀洋風の本館と和風病棟からなる貴重な建築構造です。このような建築は県下でもっとも古く、日本でも珍しい建物であり、平成4年10月から平成7年10月にかけて保存修理が行われ、平成11年に国の重要文化財に指定されました。

本館は木造2階建て、寄せむねじり寄棟造、せんがわらじ棧瓦葺で、県内に現存する洋風建築の最古といわれています。洋風らしい外観を持つ玄関ポーチは、柱頭に龍の彫り物を入れ、欄間の輪郭をアーチに似せています。設計

は、むねきぼくしよ棟木墨書に「別府浜脇佐藤平吉」とあります。

病棟は木造二階建て、寄棟造、棧瓦葺で建築年代についての記録はありませんが、明治32年の開業前と考えられます。工事期間は木材の調達を含めて約6年、従事した人員は棟木書に42人の名前が見えます。また、建築費用は2万円を要したといわれています。小屋組はキングポストクラス(洋小屋組)ですが陸梁は太い丸太材を使ったり、壁は全面にタスキ斜材(筋違い)を入れたり、ポーチ柱頭飾りに阿吖あひんの龍を配し、ポーチ天井を折り上げ格縁こつぎに組んだり、窓は石組風枠飾りに横引きガラス窓とするなど、儀洋風の特徴をよく表しています。離れは桁行5間、梁行2間、屋根は寄棟造棧瓦葺の建物で

す。この座敷及び縁は温突オンドルの床暖房が施されています。これは、当主要が朝鮮に行った時に温突を見て、昭和6年頃に真似て建てたもので、時には寝室として使用していたと伝えられています。

この時期の日本の洋風建築は庁舎・地方郡役所・学校・銀行などの公共建築が主で全国に540〜550戸程度しかなく、しかも個人医院として病棟を併設した建物は他に類を見ない貴重な建物です。平成7年に当地を訪れた鈴木博之東京大学教授は、「同時代に建てられた木の山形済生館(ローレンツ)と、この南の日野病院とは、官民の差はあっても医学黎明期の貴重な遺産である」と語っています。

